

平成23年度(2011年度)第2回 とよなか都市創造研究所運営委員会
議事要旨

日 時 : 平成23年(2011年)12月6日(火) 10時00分～12時00分
場 所 : 豊中市役所別館地階 会議室
出席委員 : 新川委員長, 北村副委員長, 赤尾委員, 伴野委員, 本荘委員, 江口委員
事務局 : 久野, 岩佐, 大床, 善教, 仲谷
傍 聴 : 0人

○開会

○所長挨拶

○案件(1)平成23年度調査研究について(中間報告)

資料: 資料1「とよなかのすがた」(数値から見た豊中市の現状把握)

資料2「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究」

資料3「若年層(高校生)の地域活動推進の要件と地域コミュニティの考察」

事務局から資料に基づき説明

<「とよなかのすがた」(数値から見た豊中市の現状把握)について>

委員

- ・加えることが可能であれば, 運営の状態や水道管の耐用年数などについても載せた方がよい。
青色の2色刷りなのはなぜか。

事務局

- ・当初はフルカラーでの印刷を予定していたが, 費用の関係で2色刷りに変更した。また, 赤などと比較して, 青色がもっとも読みやすい色だったので青色にした。

<豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究について>

委員

- ・因子分析の結果を, 豊中のブランドイメージとの関係で, どのように突き詰めて考えていくのかを検討したらよい。
- ・回収見込数とは何か。

事務局

- ・インターネット調査は, 正確な発送数を把握することが難しいので, それに比較的近い回収見込数というものをここでは使用している。

委員

- ・食文化の具体的なイメージが把握しづらい。

事務局

- ・自由回答の結果を見てみると, ケーキ屋などが, やや高級な食文化イメージに相当するものと考えられる。

<「若年層（高校生）の地域活動推進の要件と地域コミュニティの考察」について>

委員

- ・地域内での認識の高まりもあり，高校との連携は進んでいると思う。ただし，担当の先生が変わると連携体制が大きく変わる，スケジュールが合わない，高校のカリキュラムとの不適合性など多くの問題がある。行政側のPR活動にも問題がある。さらに1月～2月は地域がとても忙しい時期だと思う。
- ・進学率の高い高校は地域との連携に消極的なのか。

事務局

- ・これまで地域に目を向けることがあまり無かったというだけで，これからやっつけようという意欲はある。

委員

- ・意義ある提言となるように努めてもらいたい。

○案件（2）平成24年度事業計画（案）について

資料：資料4「平成24年度事業計画（案）」

事務局から資料に基づき説明

委員

- ・部局横断的なテーマは非常に良いと思う。実施体制等に変更はないのか。

事務局

- ・特に変更する予定はない。

委員

- ・インターンシップ事業の実績はどのようになっているのか。

事務局

- ・積極的に受け入れるようにしており，毎年3名程受け入れている。今年度は，大阪大学，立命館大学，追手門大学の学生を受け入れ，調査研究業務を行ってもらった。

委員

- ・以前は関西大学のゼミ生との連携もあった。
- ・より多くの大学との連携をすすめたらよいと思う。

委員

- ・研究の成果はどのような形で反映されているのか。

事務局

- ・これまで，行財政改革や総合計画，人材育成計画などにかかれている。職員参加や関係課との連携を進めていくことで，研究成果が施策に反映されるように努めたい。

○案件（3）「その他」平成23年度機関誌の発行について

資料：資料5「平成23年度機関誌「TOYONAKA ビジョン22」Vol.15 企画構成」

事務局から資料に基づき説明

委員

- ・執筆者確保を迅速に行うために、テーマ設定および原稿執筆依頼はなるべく早く行った方がよい。
- ・次年度の研究テーマも出そろい始めたので、それらを念頭におきながら、構成などは今年度に確定できればよい。
- ・夏休み中に依頼をできれば良い。学期始めの依頼は断られやすい。
- ・今回は、東日本大震災をきっかけに、行政等を改めて見つめ直すことがテーマの背景にはあった。次年度以降の課題としては、人口の推移を再考することがあげられる。交流人口というやや異なる視点も踏まえながら、研究を進めていけばよいと思う。加えて、人口構成も当初の推定以上に早く変化している。この問題は様々な政策に影響を与える問題だと考えている。

○案件（４）事務連絡

事務局

- ・次回第3回運営委員会は、2月上旬頃に開催したい。また、第1回の議事録についてはホームページにて公開する。

○閉会